

## おわりに

本研究の実践では、学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、地図を十分に活用するとともに、言語活動の工夫を取り入れた「地理」の指導の改善に取り組んだ。各事例の成果や課題から、次のような指導が授業改善の方策として有効であったことが分かる。生徒の実態に合わせて、各事例をアレンジしたり考え方を参考にしたりして御活用いただければ幸いである。

### 1 言語活動を授業に取り入れる

地図や資料から読み取れることや考察したことを適切に表現したり、根拠を明らかにして自分の意見を説明したりするなど、言語活動を実践することで、生徒の思考力、判断力、表現力を育成するだけでなく、知識・理解を確実に習得させることができた。言葉で表現するためには、もともとなる知識や自分なりの思考・判断に加えて、伝えようとする意欲も必要である。各事例から、言語活動は、生徒の確かな学力をはぐくむための有効な手段であることが分かった。教師は言語活動の意義や効果を十分に理解した上で、授業に取り入れていくことが大切である。その際、「地理」において育成すべき力やねらいを踏まえた上で、目標を設定し評価することが必要であろう。

### 2 段階を踏んだ継続的、反復的な指導を行う

言語活動を取り入れる際に、論理的な文章を書いたり説明をしたりする経験の少ない生徒に対しては、初めは使用する語句を示したり簡単な短い文を書かせたりするなど、段階を踏んで達成感を感じさせながら指導していくことが必要である。**事例1**や**事例2**においても、簡単なことから徐々に難易度をあげ、何度も繰り返し書かせることで、生徒は次第にコツをつかみスムーズに取り組むことができるようになった。生徒の実態や習熟度に応じて課題の設定を工夫し、継続的、反復的な指導に取り組むことが大切である。

### 3 多様な学習形態を取り入れる

各事例では、作図などの作業的な学習を個人で行うほか、グループ学習を実践したものもある。また、地図や資料から読み取れることや考察したことを個々のワークシート等に記述する活動、それらについて他者と話し合う活動、さらにグループでの話し合いの結果をクラス全員の前でプレゼンテーションする活動なども実践した。教師は教えるべきことは教えなければならない。しかし、情報を一方的に与えただけでは生徒の多様な力を伸ばすことができないこともある。知識・理解はもちろん重要であるが、生徒の様々な可能性を見いだしてはぐくむために、多様な学習形態を工夫し、取り入れていくことが必要である。

### 4 地図および地理情報システムの活用を図る

今回の学習指導要領の改訂において、地図を活用することは、地理歴史科全体にかかる改善事項である。さらに「地理」の新学習指導要領においては、内容の全体にわたる配慮事項として「地図や統計などの地理情報の収集・分析には、情報通信ネットワークや地理情報システムなどの活用を工夫すること」が示されている。複数の地理的事象を重ね合わせて関連性を読み取ったり、その原因を考察したりすることは、地理的な見方や考え方を培う上で不可欠な学習である。各学校の環境に応じて情報機器および情報通信ネットワークを活用し、状況によっては地理情報システムの考え方を取り入れてみるなどの工夫を図りたい。「地理」の指導における地図の活用については、様々な教材や手法を開発して取り入れていく余地がある。

高等学校における教科指導の充実  
地 理 歴 史 科  
新学習指導要領における  
改善事項を踏まえた「地理」の指導

発 行

平成22年3月

栃木県総合教育センター 研究調査部

〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070

TEL 028-665-7204 FAX 028-665-7303

URL <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>